

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和8年1月7日（水）
文責：情野 夏美

教職員・指導主事向けオンラインセミナーを視聴して1

以前、配布いただいた令和7年度全国学力・学習状況調査等の調査結果を踏まえた「教職員・指導主事向けオンラインセミナー」を視聴されましたか？算数・数学の第1回と第2回を視聴し、そこで大事だな、授業に生かせそうだというところをまとめましたので、お読みいただけます。今回はその第1回目についてです。

【第1回】

（1）調査結果において指摘された課題や学習指導要領改訂についての解説
教育課程課長 武藤 久慶氏

諮詢（有識者または一定機関に、意見を求める）で述べられた課題

①主体的に学びに向き合えていない子が増えている

授業難しい26. 5% 簡単23. 2%

不登校の子の44. 6%が「自分の学習のペースにあった手助けがあるとよかったです」と回答している。

②学習指導要領の浸透は道半ば

学び続ける力が減ってきてる。

学習の個別化は好みの学び方ではない。

よい学び方とよい教え方は表裏一体

→知識をつなぐ、豊富な具体例、知識の枠組み、評価基準 が戦略的になっているか。

子ども主体を増やすからこそ、「教える」を磨く必要がある。

※教育DXで改善を加速できる！

例えば…

- ・考へていることを声に出して説明する→学習効果は大
- ・テキストを読んだうえで、覚えていることを書き出す
→単に読み返すより、多くの情報を記憶できる
- ・情報を思い出すことを要する活動は効果的
- ・二重符号 言語情報と視覚情報をセットにする

「読解」で最初に必要なのは、イメージを頭の中で作ること

③GIGA はまだ緒についたばかり

実践例)
・あらかじめクラウド上で学習の手引きを示す
・NHK for school で学びを広げる、深める
・熊本市 e-net 良質のデジタル教材を使う
・毎回の板書を子どもが撮影し、チャットにアップ
→隨時既習事項を確認できる、本時のレディネスがアップする

ICT 活用→知識の理解を高めるため、学びに向かう力を高める

家庭学習について→デジタルも使いながら、個別最適時代の家庭学習の再構築が必要。

AI ドリルで宿題を指定することもありか。

適度な予習、復習を授業計画に組み込む

(2) 教科調査官からの実践解説

教育課程課教科調査官 加固 希支男氏

「できる」を目指した算数の学習をするためにやれること

～小学校5年生「割合」を例に～

学習指導要領改訂議論を貫く3つの方向性

①「主体的・対話的で深い学び」の実装

②多様性の包摂 包摂：一つの事柄をより大きな範囲の事柄の中にとりこむこと

③実現可能性の確保

↓

多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにするために…できるを目指す

↓

知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出したりして解決策を考えたり思いや考えをもとに創造したりすることに向かうこと（学習指導要領総則p77）

5年生の割合では…

ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる。

↓

前と今の学習との共通点は？世の中には同じ場面がないか？

多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにするために、必要な既習事項が「できる」ことも大切。

子どもの習熟が十分でなければ、みんなで既習事項の内容を確認する時間をとってもよい。

割合の問題では、まずは「もとにする量」を見つけること

↓

大切な着眼点

単元に入る前に教師は理解しておく。

系統性の強い前学年の学習で使った大切な着眼点を、単元の導入で共有する。

授業では、必ず子どもに表現させる場を作る。

動画は見せっぱなしにしない。子どもがどう理解しているか、教師が見取る。

分散学習について

週1回15分 直近の4単元分の問題を解く時間を確保する

↓

返却して、必ず解き直す

1週間後、一ヶ月後復習する